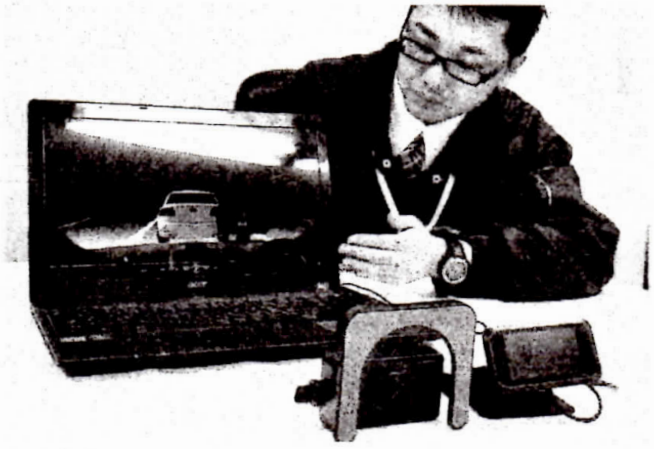
2014年１月17日　読売新聞に掲載されました。

後付け可能な衝突警報装置

太田のメーカー販売へ

太田市の電子機械メーカー「ワーテックス」（太田市東新町）が、衝突などの危険を警報で知らせる装置を開発し、2月にも販売を開始する。

同社によると、この装置は、小型のカメラと表示モニターを同社が認定した電装店などで取り付ける。前方の車両との距離が縮まり衝突が予測される場合やウインカーを出さずに車線に接近した場合などに、警告音やモニターで運転手に注意を促す。渋滞時などに役立つよう、停止中に前の車が発進した際、「前方をご確認ください」などと音声が流れる機能もある。



衝突警報装置のイメージ動画を紹介する広報担当者。手前はカメラと表示モニター

同社によると、各自動車メーカーの衝突回避支援システムはブレーキなどと連動させる必要があり、現時点では新車にしか搭載できないが、この装置は、後付けできるのが特徴という。

同社はトラック向けにドライブレコーダーを多く販売しており、他県のトラック協会からも「使ってみたい」という声があったことから、2012年夏から開発に着手。レコーダーの技術を応用し、プログラムの改良を重ねた。

同社の広報担当者は「適切な車間距離を保ったり、ウインカーを出したりといった安全運転の習慣も身につく」と話している。

価格は、税抜きで7万9800円。問い合わせは、同社（0276・25・3788）へ。